

福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議（中部運輸局）

自動車に頼り過ぎない社会づくり、自動車と公共交通機関などの共存する社会の創造を目指し、自治体及び事業者、県民が一体となって、鉄道と軌道の相互乗り入れ等公共交通の乗り継ぎ利便性を向上するハード施策と、「カーセーブデー」等クルマ利用を抑制するソフト施策の両面から長年取り組んでいる。

取組内容・効果

■ハード面の取組

- ・異なる事業者間での鉄道（えちぜん鉄道）と軌道（福井鉄道）の相互乗り入れ。
- ・福井駅前広場で鉄道、バス、タクシー、コミュニティサイクルも含めた総合交通ターミナルの整備を推進。
- ・駅や県立施設等でのパークアンドライド、パークアンドサイクルライド駐車場の設置。

■ソフト面の取組

- ・毎週金曜日を中心に、クルマ通勤を控える「カー・セーブデー」を実施。
- ・自転車利用で短距離のクルマ利用を抑制する「福井バイコロジスト宣言」への参加呼びかけ。
- ・会員である交通事業者や自治体が進める取組を、イベント開催・出展や雑誌掲載などにより広報。

■環境保全効果

- ・約14tのCO2削減※

※交通関係環境保全優良事業者等表彰内規実施要領【別添】CO2排出削減量計算シートに基づき算出。

■表彰実績

- ・平成30年1月 第9回EST交通環境大賞（環境大臣賞）

評価ポイント

(1) 創意工夫

- ・異なる事業者間での鉄道と軌道の相互乗り入れや、各交通機関を乗り継ぎしやすい結節点として駅前広場を整備することで、交通手段選択の行動の変容を促している。
- ・交通事業者の協力を得て、毎週金曜日を「カー・セーブデー」と設定し、金曜のみ使用できる割引切符等を発行。
- ・3キロ以内は積極的に自転車を利用する等4箇条の、「福井バイコロジスト宣言」への参加呼びかけ。

(2) CO2排出量削減への貢献度

- ・カーセーブデーの取組には、県民会議に所属する56団体にとどまらず広く県民が参加。

(3) 継続性

- ・平成23年11月に学識経験者・交通事業者・県・市町村等37団体により設立。現在は56団体が所属。

(4) 一体性

- ・県、市町村以外にも、交通事業者、各事業者団体、老人クラブ連合会やPTA連合会など広く県民が参加。